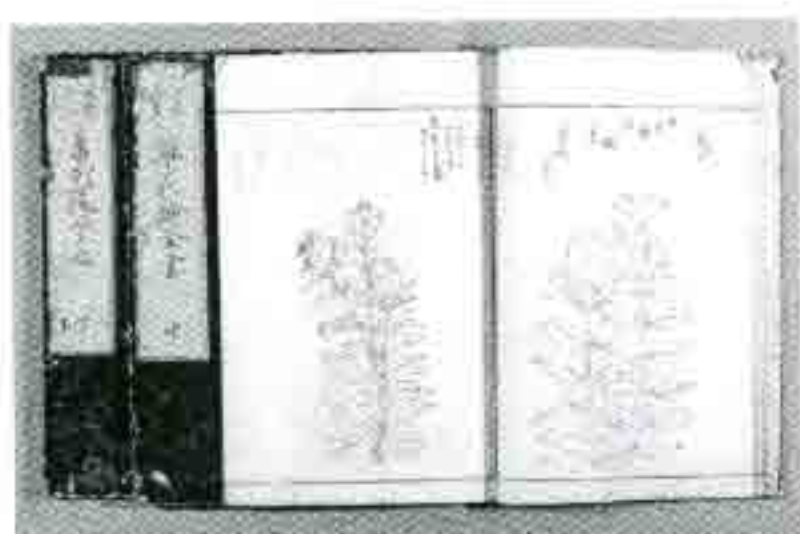


かたりべ 76

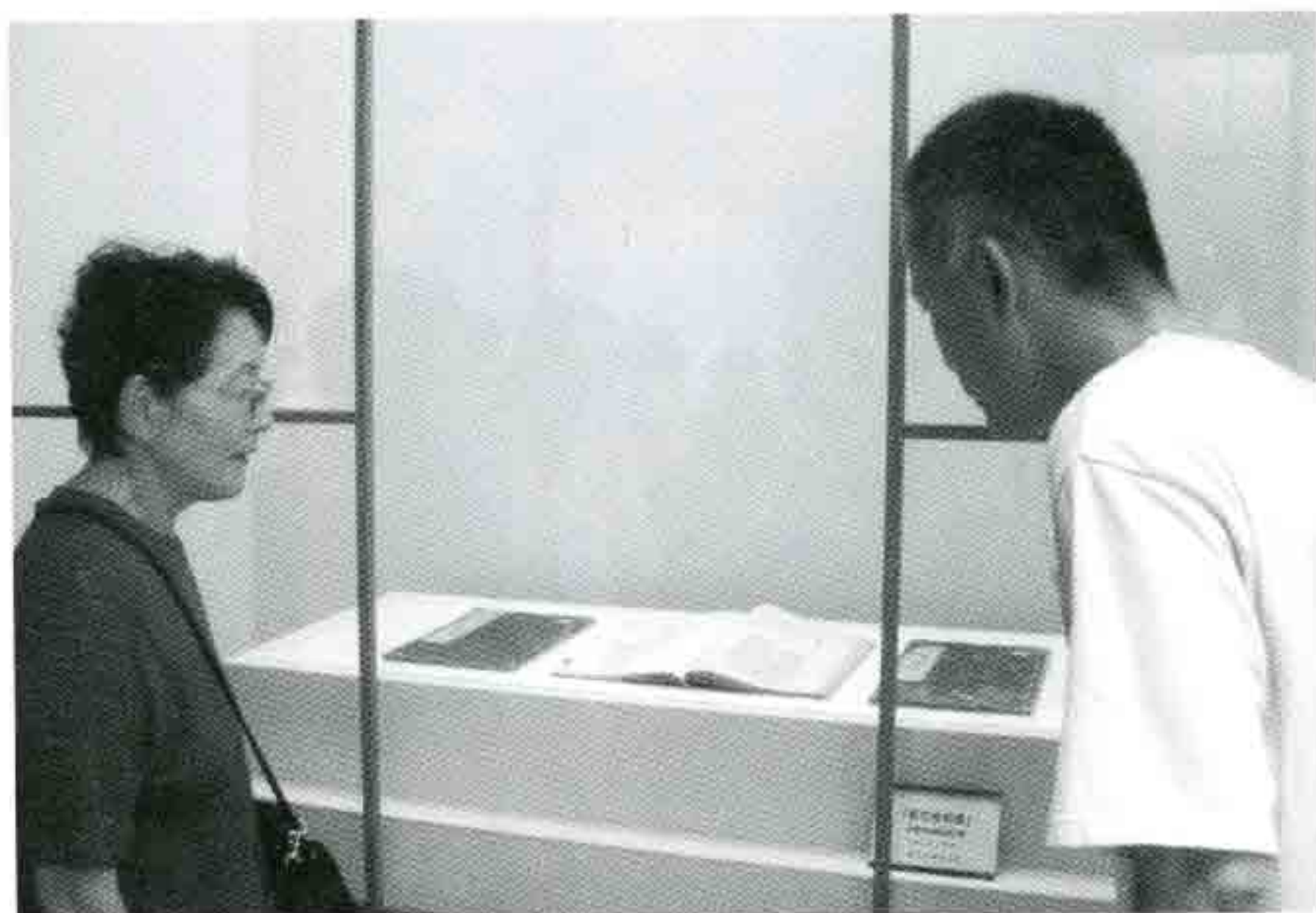
豊島区立郷土資料館だより



『草花絵前集』〈全3冊〉



『菊花壇養種』〈全1冊 部分〉



園芸文化館内に展示された『草花絵前集』（早川万紀子氏撮影）

浜名湖花博に出演した園芸書

去る四月八日から一〇月一日までの一八七日間、静岡県浜松市を会場として浜名湖花博が開催されました。会場内に造られた大小一二三〇を超える屋外庭園や花壇には、六〇〇〇品種五〇〇万株に及ぶ季節の花々が植えられ、また、国際花の交流館、庭文化創造館、園芸文化館（後述）など一二のパビリオンでは、各テーマに沿った展示が公開され、来場者の目を楽しませました。主催者側の発表では、当初の目標数値を上回るのべ五四五万人の来場者があったということで、好評を博したイベントとなったようです。

さて、江戸時代当時世界で最も進んでいたとされる日本の園芸文化を、朝顔・菊といった伝統園芸植物や盆栽を通して紹介した園芸文化館では、当館で所蔵する園芸書の一部も展示されました。元禄一二年（二六九九）に刊行された上駒込村染井の植木屋伊藤伊兵衛政武による『草花絵前集』（全三冊）と、弘化三年（一八四七）に刊行された菅井菊叟著・池田英泉画『菊花壇養種』（全一冊）の二点です。前者は、草花類のスケッチが、花の色、開花時期とともに記された“草花図鑑”であり、後者は、菊の播種、根分、挿し木などについてが絵入りで記された“菊栽培マニュアル”です。いずれも江戸時代に刊行された貴重な資料ですので、照明や埃による資料の劣化を最小限に抑えるため、会期中一週間程度を単位として数度にわたり展示いたしました。

豊島区域内には、かつて駒込・果鴨といった植木屋集住地域が存在したため、当館では、一九八四年の開館当初から、地域資料として園芸関係資料の収集を行ってきました。こうした収集作業は、今後も続けていきますが、今回のような資料の貸し出し依頼に関しても公開（展示）条件を勘案しながら応えていき、多くの方々に原資料の質感や迫力を感じていただきたいと思います。（秋山）


~~~~~ただいまホットに準備中です~~~~~

## 第二回企画展「あったかく暮らす」二〇〇五年一月二六日(水)〜三月二三日(日)

~~~~~

郷土資料館では、来年の一月二六日より、企画展「あったかく暮らす」を開催いたします。ここでは、開催に先立って、

おおよその展示の内容をお知らせいたします。興味を持たれた読者の皆様は、三月一三日までの会期中に是非ご来館ください。

◆私も使ってた！

今回の展示資料をご覧になった入館者からは、おそらく、「なつかしいねえ」「これも暖房具なの？」「どうやって使うの？」といった声が聞かれそうです。また、「わたしが使った行火と同じ。でも、展示してあるような使い方はしなかった」とか、「これでほんとうに暖かかったの？」、あるいは「保温を高めるためにこんな工夫をしてきたんだ」というような感想があることでしょう。

当館では、一九八四(昭和五九)年に開館して以来、区民の方から寄贈されたさまざまな資料を保存しています。今回は、それらのなかから暖房具を選び、展示します。現在、開催に向けて準備を進めています。一点一点の資料からは、

使用者や伝承者の「もの」に対する思い入れや生活環境、時代背景が異なっていたことがうかがえます。

ところで、火鉢は、灰を入れて炭火をおこし、手を焙^{あぶ}ったり湯を沸かしたりする暖房具ですが、形態や材質は多種多様です。その名称(呼称)には、丸火鉢・角火鉢・長火鉢・火桶・手焙り・唐金火鉢等があり、火鉢というものの歴史・文化の奥深さを表すものとして関心がもた



秋元墓地生花商の長火鉢 雑司ヶ谷霊園開設時の明治7年から使用している。この炭火で線香に火をつけ、墓参の人に渡す。線香を置いた長火鉢の平らな部分をネコイタという。

火鉢と火鉢敷 側面に山水画風の模様で陶製の元の使用者は、昭和31年に結婚した時の所帯道具のひとつがこの火鉢だったという。火鉢の外径は32cm。高さは25cm。(火鉢敷は別の方からの寄贈資料)



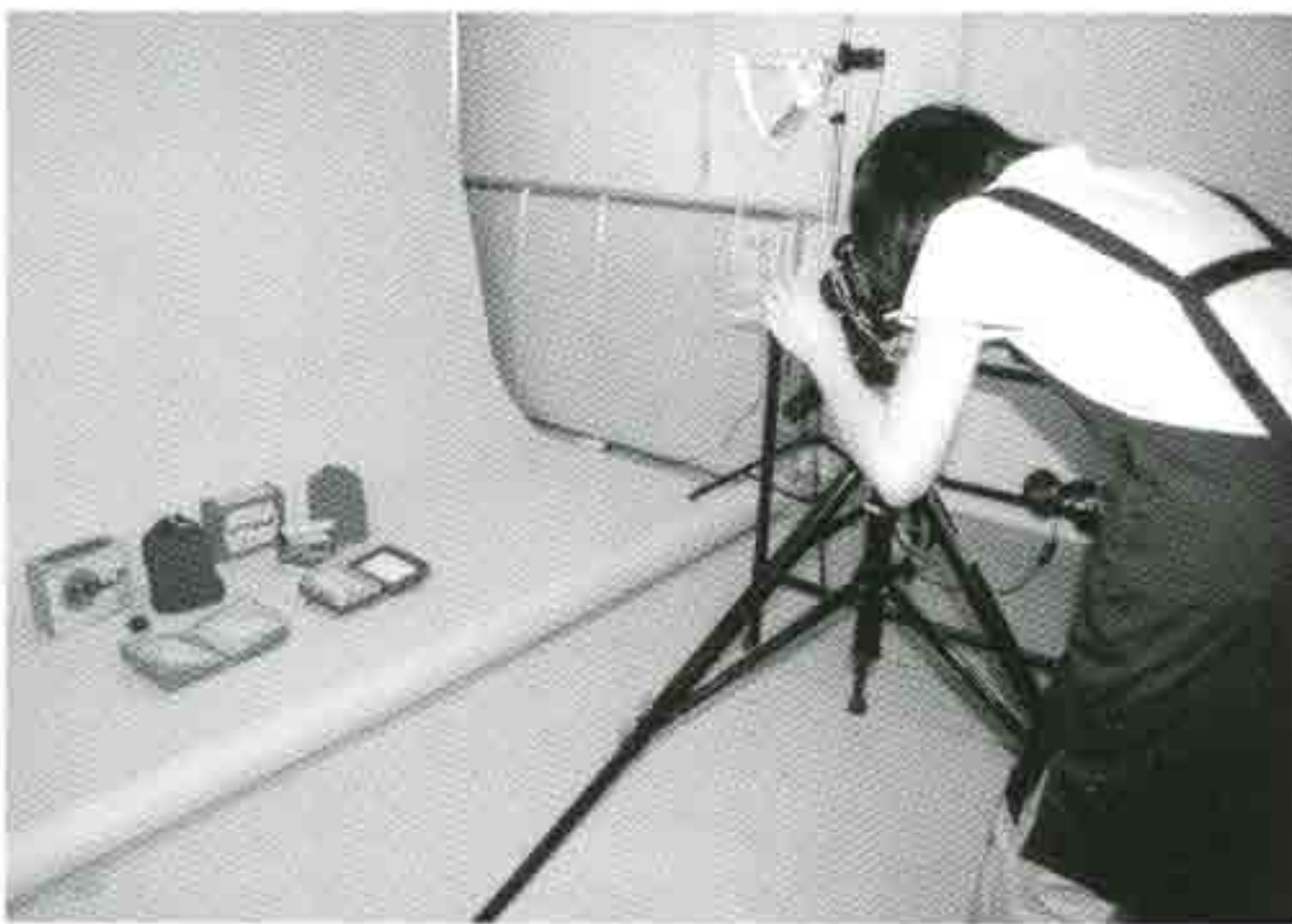
れます。これらの類似点・相違点を探してみること面白いことでしょう。

◆エアコンを使い、炭も使う“現在”

冬の朝、起きてまず行うことがエアコンのスイッチを入れること、という人は決して少なくないと思います。しかし、オール電化生活が推奨されていく一方で、定番ともいえる暖房具や特定の燃料が見直されている状況もみられます。かつて、どの家でも使用していた炭が、暖をとるためだけではなく、空気や水の浄化作用・生活の潤いや癒しのために効果的であ

るということが認められています。展示資料を、現代生活の変化と関連させて御覧いただければ幸いです。

会期中には、展示説明会を開催いたします。展示資料の見どころや準備中の様子等をお伝えすると同時に、見学者の方から直接、御意見・御感想をいただく機会にしたいと考えています。日時は、一月二九日(土)、三月二二日(土)、いずれも午後二時から三時までの一時間です。申込みは不要ですので、どうぞ直接ご来館下さい。(福岡)



「図録」掲載用の資料を撮影 資料の置き方、ライトのあて方を考えて「うまく撮るのは難しい」

江戸時代の道筋を究める！ 歴史講座「江戸切絵図をあくる」を終えて

郷土資料館では、去る一〇月三〇日、

十一月六日、一二日の三回にわたり、歴史講座「江戸切絵図をあくる」を開催いたしました。講師には、東京都写真美術館の原史彦氏を迎え、初回は江戸図の歴史や江戸切絵図の見方を含めたガイダンスを、第二回は雑司が谷・音羽方面へのフィールドワークを、第三回は駒込・巣鴨方面へのフィールドワークを行いました。

江戸切絵図とは、江戸の市街地部分を

地域ごとに区切って、武家地・寺社地の案内を絵入りで載せたものです。当時は各家に表札というものがなかったため、江戸市中に居住（存在）する武家や寺社を捜し当てるのは容易ではなく、そのため携帯に便利で見やすい地図の製作が求められたようです。また、参勤交代などにより地方から江戸へ出てきた武士にとっては、江戸土産のひとつとしても人気があったようです。江戸切絵図を製作する板元はいくつかありましたが、今回の講座では、鮮やかな色使いが特徴的な尾張屋板のもの（嘉永七年（一八五四）板行）の複製を使用しました。

十一月六日と一二日に実施したフィールドワークでは、おおよそ以下のようなコースをたどりしました。各ポイントでは、講師の先生からの簡潔で的確な解説を聞き、参加者からの質問を適宜受けながら

散策を楽しみました。

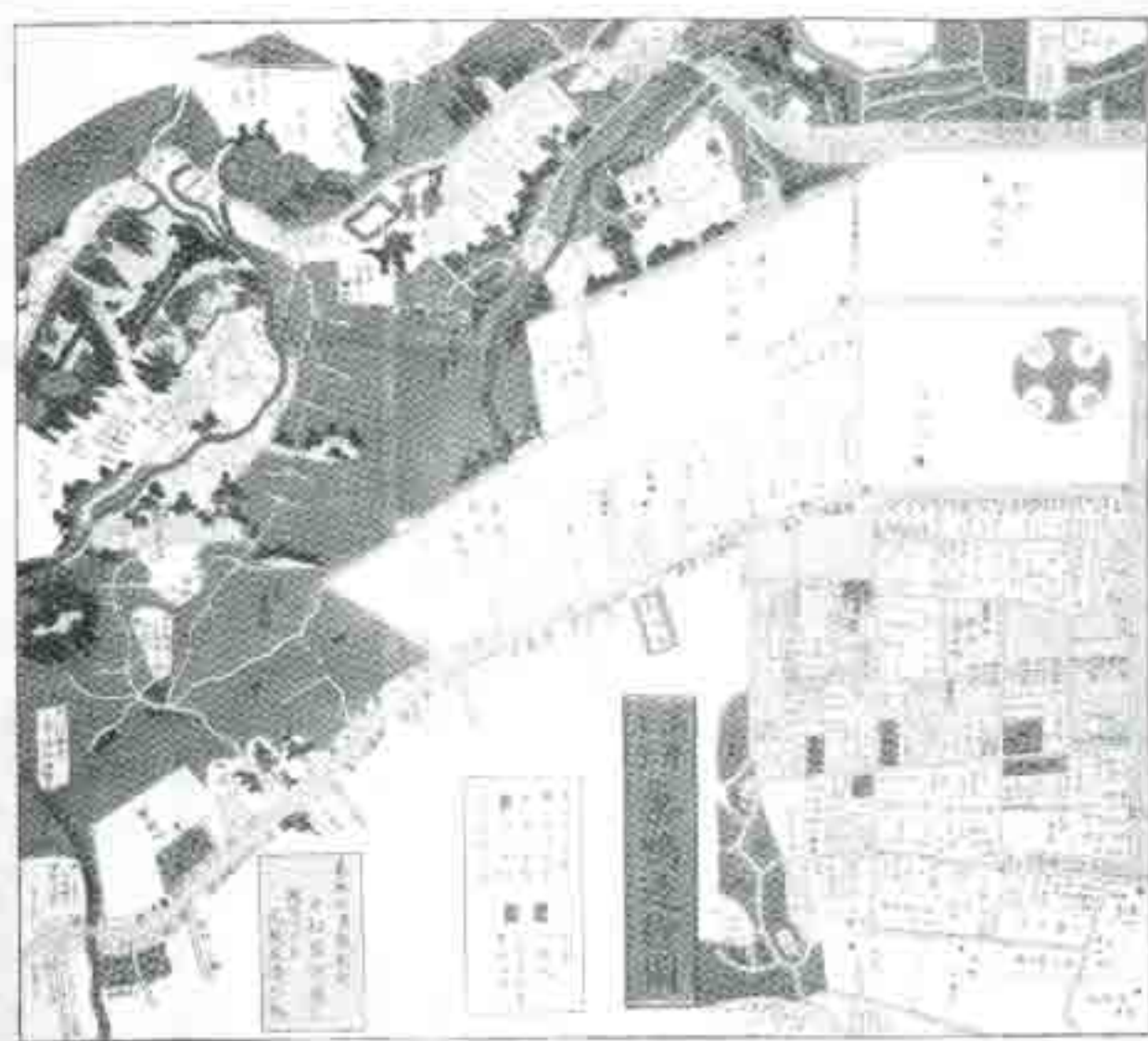
【雑司が谷・音羽方面】雑司が谷みずく公園（集合）→雑司が谷鬼子母神→法明寺→本納寺→大鳥神社→旧弦巻川跡→御鷹部屋跡付近→旧宣教師館→菊池寛旧宅跡→清土鬼子母神→護国寺（解散）
【駒込・巣鴨方面】駒込駅（集合）→子育て地蔵→妙義神社→西福寺→十二地蔵→専修院→勝林寺→染井霊園→慈眼寺→本妙寺→巣鴨四丁目児童遊園（解散）

今回の講座では、江戸切絵図に描かれた道筋が現在のどの道に該当するのか、要所所で立ち止まり地図で確認しながら散策していきました。その結果、当時と現在との対照が困難な道筋もいくつかあったものの、大部分の道筋が今に残り使われていることが判明しました。二〇数名の参加者からは、「一枚の江戸切絵図に対する講話も容易に理解でき、沢山の事々を教えて頂きました。（中略）江戸切絵図が現在に残っている建物や物件と往還に、様々の人達の営みと足音を見聞しているような不思議な感覚にとらわれた瞬間もありました。」（前略）昔からの道で今も生きているものがある事を実感する。」といった感想（アンケートより）が聞かれ、地図を片手に実際に足を使って現地を歩く有効性を改めて確認することができました。

認することができました。

当館では、『豊島区地域地図』シリーズを第一集から第六集まで刊行し販売しています。それらのうち、第三集（頒価二〇〇〇円）には江戸切絵図四枚（現行の高田・目白・雑司が谷・南池袋・東池袋・駒込・巣鴨地域がほぼ網羅されています）を複製したものが、第五集（頒価一五〇〇円）には村絵図二枚（下高田村・雑司ヶ谷村）を複製したものが収められています。同梱の解説や付図を利用して散策すれば、あなたも江戸時代の豊島区地域にタイムスリップすることが可能です。

（秋山）



染井・王子・巣鴨辺絵図 嘉永7年（1854）



Q 豊島区の人口の推移について、何か特徴的なことはありますか？

(質問者 りん)

~~~~~

**A** 下のグラフを見て下さい。これは一九二〇(大正九)年以来、五年ごとに行なわれた国勢調査(戦争の影響で一九四七年だけはズレています)によってみた豊島区の人口の推移です。

豊島区が成立したのは一九三二(昭和七)年のことです。それ以前の数値は、のちに豊島区になる旧四町の合計を示しています。

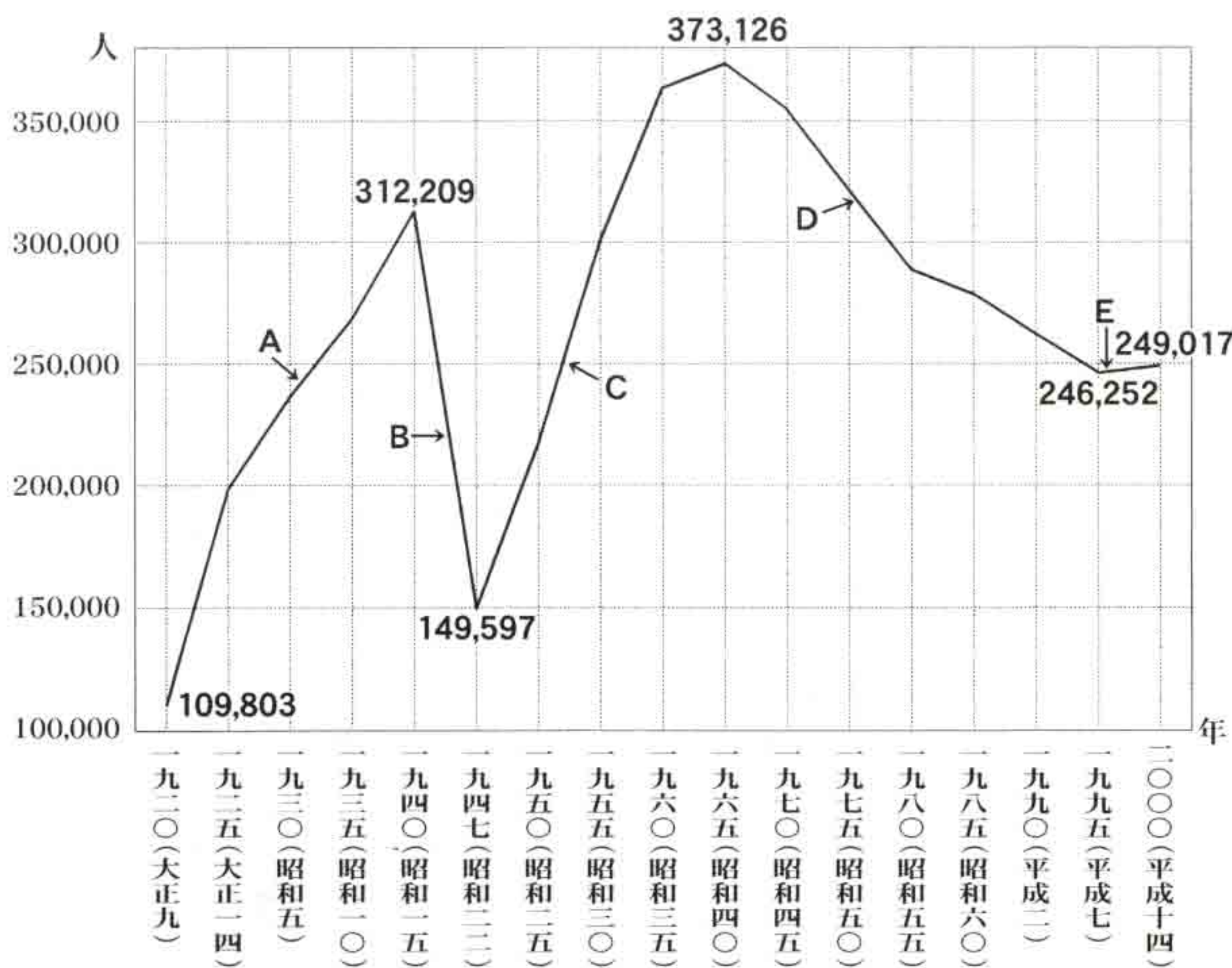
一見しておわかりのように激しい増減を繰り返しています。大まかにいうと、一九四〇(昭和一五)年までの急激な人口増加「A」、その後一九四七年にかけての一挙の減少「B」、さらに一九六〇年代にかけての再度の急増「C」、それが一九六五年をピークにして減少傾向が続き「D」、一九九五(平成七)年から二〇〇〇年への若干の増勢「E」といった具合です。

それでは、なぜ、こうした増減現象が起こったのでしょうか。もちろん色々な要因が考えられますが、大雑把に

見ると次のような理由が考えられます。

Aは、一九三二(大正二一)年の関東大震災を一つのきっかけとした東京郊外の急速な宅地化を示していると思われます。豊島区地域では、この時期、長崎町の農地が減少し、住宅が増えていきます。Bは、いうまでもなくアジア太平洋戦争によるものです。軍隊への召集(出征)や建物疎開・人員疎開によって大都市の人口は減少し、それに空襲による戦災死や避難が続きました。Cは、戦後復興期から高度経済成長期にかけての都市への人口集中を背景としたものです。豊島区でも戦前のピークをはるかに超えて人口増加が進みました。Dは、過密な居住環境を避けるために、住居をさらに郊外に移す人が増えたことによるものと思われます。もっとも、日本全体の経済成長は続いているので、豊島区での就業就学人口(昼間人口)は一九九〇年頃までは増えています。Eは、最近の動向ですが、果たしてどのような傾向を辿るかは、今後見極めていかなければなりません。

人口推移については、ほかに年齢構成や、生活環境の問題などの要因を考慮する必要があります。(回答者 あおき)





# セピア色の記憶

## 第11回 池袋東口に「人世坐」があったところ

左に示した二枚の写真は、ほぼ同じ地点から撮影した昭和三七年（一九六二）

「高木進一氏撮影・提供」と現在（二〇

〇四年一月六日）の東池袋一―二付

近（グリーン大通り側）の様子です。地図に示した\*印は撮影地点を、↓は撮影

方向を示しています。現在、東京信用金

庫本店が所在する場所は、元朝日新聞の

記者で小説家の故三角寛（本名・三浦守）

が、昭和三三年二月に創設した映画館

「人世坐」があったところです。「文士

経営」を標榜し異彩を放っていた人世坐

は、当初の正式名称を「文芸会館人世坐」

と言ひ、舞台設備もあつて演劇の上演も

可能であつたことなどから、三角は人世

坐に一種の「文化センター」的役割を持

たせたかつたものと考えられています。

建物の外観について、『人世坐三十五

年史』（三浦大四郎編、一九八三年刊）

には、「人世坐の定員は四百五十名、純

日本建築で、およそ映画館にはそぐわな

い建物であつた。一見芝居小屋風であつ

たが、風呂屋と間違える人も多かつた」

と記されています。また、「人生」では

なく「人世」を用いた理由として、同書

には、「人生というのは、一人の人間の

生涯だが、人世は、多数の人間の生涯を

意味している」と記されています。

三角は、その後、板橋駅東口に弁天坐

を、池袋駅東口に文芸地下劇場と文芸坐

を次々とオープンさせます。しかしなが

ら、昭和三四年一月に起こつた人世坐の

従業員による労働争議や、観客数の減少

などにより、徐々に経営が苦しくなつて



1953年の池袋駅東口の様子 写真右上部に「人世坐」の看板がみえる

いきます。そして、名画座の代名詞として、また、時に「日本の夜と霧」（大島渚監督）といった話題作の上映館として多くの人々に親しまれた人世坐は、昭和四三年七月に閉館となりました。

池袋駅東口がまだ一面の焼け野原で、池袋駅から東鴨ブリズン（現在のサンシヤインシティ方面）が見通せた（右写真参照）頃誕生した人世坐は、庶民の娯楽に対する欲求を満たし、また池袋の映画文化の発展に一定の貢献をしたと言えるでしょう。なお、東池袋一―二四街区内の通りの名前である「人世横丁」は、三角寛が名付けたとされています。（秋山）

\*本欄は、『豊島区史 通史編三』（一九九二年刊）一八九―一九二頁の記述を参照しました。



# 郷土資料館からのお知らせ

★「豊島区立郷土資料館研究紀要 生活と文化」第一四号発刊のお知らせ

学芸員による研究論文六本と、前年度の郷土資料館および旧宣教師館事業報告「年報」から構成されています。

## ◆掲載論文（掲載順）

① 桐生悠々「関東防空大演習を喰う」の論理と歴史的意味  
〈青木哲夫〉

② 伊藤伊兵衛政武著「本草花蒔絵」の基礎的考察（上）  
〈秋山伸一〉

③ 日本鉄道豊島線池袋停車場設置経緯に関する考察（一）  
〈伊藤暢直〉

④ 館蔵データの再活用  
〈福岡直子〉

⑤ 雑司が谷旧宣教師館住民保存運動経緯について  
〈浜地真実子〉

⑥ 掲鉢図 鬼子母神の説話画―百鬼夜行絵巻と関連させて―  
〈藤岡摩里子〉

◆販売価格 七〇〇円（B5判 九七頁）  
\*郷土資料館窓口、あるいは、区役所の行政情報公開コーナーで買い求め下さい。

★企画展「あったかく暮らす」開催に伴う臨時休館について

企画展「あったかく暮らす」の開催準備のため、来年一月一六日（日）から二五（火）までの期間、臨時休館いたします。なお、この期間中も書籍の販売やレファレンス業務は行なっておりますので、ご利用下さい。

## 区民のための

### 博物館用語の基礎知識

#### 7 聞き取り調査

博物館で扱う資料等について、それにまつわるエピソードや使用方法を聞き、記録にとどめること。博物館資料は、所蔵者や使用者が異なれば、たとえ同一の製品であったとしても購入場所や使用期間・使用方法が微妙に異なるものである。各資料固有の情報を得るために、館にとって聞き取り調査は重要な作業である。

#### ▽用例△

学芸員A「これから、鈴木さんの聞き取り調査に行ってくるね。」

学芸員B「悪いけど、その時、センバコキの使い方も聞いてきて。」

学芸員A「ふわーいっ！」

## 編集後記

早いもので、師走を迎えました。猿（申）から鳥（酉）へのバトンタッチも秒読み段階です。

当館では、八月下旬から二週間にわたり、博物館実習生を六名受け入れました。博物館実習は、教員免許状を取得する際に教育実習を行うのと同様、学芸員資格取得を目指している学生にとっては、必ず通過しなければならない最後の「関門」と言えます。この間に、実習生たちは、資料整理、写真撮影及び焼き付け、展示シナリオづくりといった学芸員の仕事の一端を経験し、また、郷土資料館の「実状」を知ることになったのでした。

（あき）

かたりべ

No.76

2004年12月1日

豊島区立郷土資料館

豊島区西池袋2-37-4

電話 03-3980-2351

http://www.museum.toshima.tokyo.jp